

第3回平塚市社会教育委員会会議要旨

日時	令和4年10月25日（火）15時00分～17時00分
会場	平塚市役所410会議室
出席委員	井手委員、大和田委員、鈴木委員、丸島委員、小巻委員、 畠中委員、江水委員、飯田委員、伊東委員、河野委員
欠席委員	上間委員
事務局	平井社会教育部長、田中社会教育課長、西山中央公民館長 坂田課長代理、木村主査、吉水主事
傍聴者	なし

会議要旨

1. 議長あいさつ

最近、秋も深くなり、体調の崩しやすい気候になっているが、気を引き締めて、会議を進めていきたい。よろしくお願いします。

2. 議事

(1) 神奈川県社会教育委員連絡協議会の事業について

- ・地区研究会（愛川町）について

事務局から11月21日（月）に開催予定の地区研究会の案内をした。

(2) 協議テーマについて

○議長

前回までの会議では、「子どもの地域参画」や「コロナ禍での地域活動」、「子どもの居場所」、「地域の活動再開」について意見が出てきた。

コロナの影響で地域行事も感染状況により、夏まつり等が中止になっている。豊田地区では、神社の祭りは中止となったが、子ども達の太鼓の練習は実施できている。各地域の状況について皆さんから情報をいただきたい。

まずは、事前配付している大野地区の教育力ネットの取組である「中学生ボランティア派遣事業」について紹介したい。

→資料に基づき、中学生ボランティア派遣事業について、公民館の活用事例を挙げて説明された。

○委員

この事業の派遣先はどのようなところか。

○議長

教育力ネットの構成団体をはじめとする地域の各種団体である。個人の申し込みは受けていない。以前はボランティア活動をしていると中学校の内申点に加点されていたので、希望者が多かった。今はこのようなことはないため、応募者はあまり多くない状況である。

○委員

私の地区では、私も親父の会としてお手伝いしているが、私の子どもも金旭中学校でボランティア登録をして活動している。金田小学校の秋まつりの自転車整理の手伝いをした。

○副議長

お子さんがボランティアをしたきっかけは何か。

○委員

中学校でボランティアの登録を呼びかけてくれたことがきっかけである。

3月に開催する金田公民館まつりでは、青少年指導員が模擬店を出店するが、その時にお手伝いしたボランティアは商品の御礼としてフランクフルトが食べられるため、多くの生徒が集まってくれる。

○議長

金旭中学校の場合は、事業ごとに募集するのではなく、登録制か。

○委員

年間の地域の事業がある程度決まっているので、学校の担当の先生が事業ごとに参加希望のアンケートを取っているようだ。

○副議長

この中学生ボランティアを実施している地区では、中学校を卒業した高校生以上の方が参加するようなことがあるか。

○委員

一部経験者が戻ってくることがある。教育力ネットの方の大学生のお子さんがPTAの活動に協力することがある。

○議長

港地区からイベントの情報提供があるので、説明をお願いしたい。

委員から社会福祉協議会主催の読み語りボランティアによるおはなし会と青少年を守る会主催の郷土いろはカルタ大会について説明があった。

郷土いろはカルタ大会は2年間コロナによって中止となっていたが、今年度は開催する方向で準備している。コロナ対策として、来賓や保護者の来場を取り止めたり、試合数を減らしたりして実施する予定。例年通り中学生に読み手のボランティアをお願いする予定である。

また、港小学校150周年を記念して学校でカルタを作成する。

○委員

中学生は部活動や塾で忙しいが、どのような子どもがボランティアに参加しているのか。

熱心な部活動に入っている場合、なかなかボランティアの参加は難しいのでは。

○委員

中学生はとても忙しいので、ボランティアの優先順位はそれほど高いものではない。参加してみようと思うのなら、とりあえずボランティアとして登録してもらい、直前に部活動や塾等の予定が入ればそちらを優先しても致し方がないかもしれない。

○委員

私の地区では、中学生ボランティアはない。同じ市内でも地域によってバラつきがある。

○議長

地域活動を担ってるのは地域の方だったりするので、バラつきは地域性なのかもしれない。(地域の団体ごとで内容を決めることもあり)なかなか一律で同様の事業を実施させるのは難しい。

○副議長

地域の各種団体以外にもさまざまところでボランティアは募集している。ただ中学生や中学生の親世代がボランティア募集の情報をどのように収集し、アクセスするかが大きな課題かもしれない。

大学の学生のボランティアの状況はいかがか。

○委員

授業の一環である実習がきっかけとなり、自発的にボランティアをする学生はいる。

私を感じたことは、社会教育をユニバーサルデザインとして捉えて、市民が等しく同じようなサービスを受けることを担保するべきか、あるいは民に任せて地域差が出ても仕方ないとするのか。このあたりを考えていかないといけない。

社会教育はいつでもどこでも誰でも学びたいと思ったら学ぶことができるという原点に立ち返ってみると同じ納税者でサービスの差があっていいのかを考えてみてもいいのでは。

今はネット社会なので、カルタ作成を例にすれば、ウェブ上で共通のフォーマット使って内容を募り、展開すれば、サービスの機会の平等になるのかもしれない。

○議長

中学生は大変忙しい。公民館で企画した紙芝居の読み聞かせボランティアでも、事前に集まる日程を決めていたが、なかなか全員が集まるのは難しかった。

運営側は中学生の忙しさを理解した上で、全員参加は難しいことを念頭に置いて依頼しないといけないかもしれない。

ただ子どもたちには、ボランティア活動の優先順位が低いから土壇場でキャンセルして良いものではないことを教えていかないといけない。自分の意志でやると決めた以上、責任が伴うことを知ってもらいたい。

○副議長

小学校では、ボランティアに参加したりするようなことはあるか。

○委員

小学校では、各種委員会活動がボランティア要素の含まれているものかもしれない。

実際、地域の方から依頼されるボランティアは小学生では体力面や安全面等で中学生が担うことが多いと思う。

また、小学校でも「地域のことを考える」授業が実施されている。6年生の国語の教科書に「まちの幸福論」というものがある。そこでは、コミュニティデザインについて学習する。岡崎小学校の6年生は岡崎地区をより良いまちにするためにはどうしたらよいか各自配付されているタブレットを使い、プレゼンテーションを行っている。同じ中学校区である城島小学校とオンラインで交流することもしている。自分の住んでいるまちをどのようにしたらより良いまちになるのかを考える授業になっている。

手を挙げて意見を言えない子もタブレットであれば意見を伝えられるようなこともある。

○委員

これだけ一人に一台タブレットが普及して、オンラインでの交流が浸透してきている状況を考えると、集まって対面で実施する発想を改めた方がいいのかもしれない。

子ども達の世代は電子機器に慣れているため、それを利活用して、子ども達の参画を考えていくことも必要ではないか。

○委員

携帯通信会社で行っているスマホ教室などがあるが、これを小学生にとって身近な存在である中・高校生がやってくれたらいいのではと思っている。

星槎国際高等学校でサイバー犯罪ボランティアというものをやっていて、小学校でスマホの安全な使い方を教える活動をしている。本校でもお願いしたいと考えている。

○議長

自治会の活動ではいかがか。

○委員

私の地区では、小学6年生になると近くの2つの中学校のどちらか好きな学校を選択することができ、中学校ごとで特色が違う。私の地区の自治会は中学校との繋がりよりも小学校との繋がりの方が大きく、さまざまな連携をしている。

大原小学校は、2階が大原公民館と繋がっており、小学生にとって、公民館はとても身近な所で、自治会も公民館と深く関わっていることもあり、小学生は身近な存在である。

○議長

公民館ではいかがか。

○委員

委員の話を伺っていて、地域活動や公民館事業はアンシャンレジームな人間が担っているのかもしれない。

先日、中学生の数名が公民館に来て、和室や調理室などの各部屋の前に貼るイラストを持ってきてくれた。文字で部屋名が書いてあるより、その部屋が判るような手作りのイラストの方がよいと好評だった。

これは誰かが中学生に依頼したわけではなく、中学校の探求の授業で自ら考えて自発的にやってくれたことだった。

公民館事業も子ども達の自主性に比重を置いた事業をしないといけないのではと感じた。中学生は放課後がとても忙しいため、中学校で地域を考える授業が週に2時間でも実施してもらえると嬉しい。

地域もその探求の授業に出向くことがあってもよいのではと思う。

○委員

不登校の子ども達にボランティアを勧めることがあってもよいのでは。学校には行けなくてもボランティアだったら参加できることがあるかもしれない。

○委員

例えば、ちいき情報局のような媒体を活用して、さまざまなボランティアを募集してみても、多くの子ども達が見てくれるようになれば、マッチングがうまくいくかもしれない。難しいことかもしれないが、大人も子どもも一緒になって交流できる媒体ができると良いのでは。

○議長

ある程度大人が関与して進めていかないと中学生だけでは難しいところがあるだろう。

子ども達のニーズにあった機会を多く設けてあげられるのがよい。このような環境を準備するのは、地域でもよいし、市がやってもよいだろう。中学生にしっかり伝わるよう周知できるとよいかもしれない。

○副議長

子ども達が活動する団体として、青少年課が所管している「平塚市ジュニア・リーダーズクラブ」があるので、是非、市HPなどで詳細を確認してみたいかでしょうか。

(3) 次回の会議予定の確認

第4回会議日程 令和5年1月24日(火) 15時から(410会議室)

3. その他

事務局から配付資料(令和4年度平塚市公民館要覧)について、紹介をした。

○副議長

この要覧は誰を対象に作成しているか。

○事務局

基本的に市民の方を対象に作成している。

○副議長

各館の紹介をしているものを事業写真等の掲載をするなど、目を引く工夫があるともっとよくなると思う。

○事務局

今後の参考にさせていただく。

以 上